

(3) 高等部 職業科「前期就業・施設体験事後学習」

ア 学部の実態

高等部は1年生が8名、2年生が7名、3年生が4名の計19名が在籍している。本校中学部からの内進生13名に加え、他校の中学校から進学した外進生が6名おり、実態は多岐に渡る。高等部の教育目標は「社会生活や職業生活に必要な力をより一層高め、社会に向けて自ら学び考える心豊かな人間性を育成する」としており、自ら進んで社会に向き合い生活をするために必要な力、健康な身体と何事にも挑戦しようとするたくましい心、そして多くの人と触れ合い繋がることができる人間関係を育むことができるよう日々の教育活動に取り組んでいる。

将来の社会生活や職業生活をするために必要な力を学んでいく中で、生徒たちの「働くこと」や「大人になること」への意識は少しずつ高まってきている様子が見られる。また、その意識は学年ごとに高まっており、働くために必要な知識や技能を段階的に習得してきている。例えば、教科書や就業・施設体験についての評価表等の資料を元に、ワークシートや日誌には働くために必要な力や身につける力に関する目標を書いたり、目標や評価等について教師と話したりすることができており、日頃の学習で働くために必要な力を知識として理解し、表現しようとする姿が窺える。一方で、知識や技能を自分事として受けとめて実際の学校生活や校外活動で活用できているとは言い難い。例えば、挨拶において学習の中で大事だと答えることはできるが、生活場面の中で意識して自ら行っている様子は少ない。状況による挨拶の違いや、困ったときの解決方法等、生徒本人の理解状況や特性が関係することもあるが、もっている知識を自分から思考・判断して生かしてはいない姿が見られる。

自分の考えを広げたり深めたりする話し合いの場面については、学級等日頃から慣れ親しんでいる環境の中での意見交換は活発に行われているが、慣れていない環境や交流の少ない相手に対して自分の考えを伝える等表現することが難しく、受動的になることが多い。

以上のことから、生徒たちが経験の中で培ってきたことを大切にしつつ、生徒が自身の課題を見出し、改善に向けて主体的に取り組む力を育成することが将来の豊かな生活に繋がると考えた。高等部研究では、生徒が自分で思考・判断できる手立てや支援を中心に、自身がもつ知識をより活用することや、考えを深めて自分で気付いて行動する等の表現を保証するような授業の在り方について検討を深めることとした。また、自分の課題に気付いたり、考えを深めたりするために他者の考えに触れることも大切であると考え、友達との学び合いを取り入れることとした。

高等部の研究を進めるにあたっては年2回の研究授業を中心に検討を進めていく。ここでは第1回研究授業として前期就業・施設体験及び校内実習の事後学習を取り扱うこととした。特に、高等部3年生を中心に「思考力・判断力・表現力」を引き出す支援について考えた。対象の高等部3年生には女子1名、男子3名の計4名在籍している。3年生には課題を自分事として受け止めるための自己理解が不十分であることが実態として挙げられるが、発表の場面では聞き手のことを意識した工夫をしながら伝えたり、他者の意見を受け入れたりするこ

とができるようになってきた。また、相手の話を聞いて理解して行動し、自分の思いや考えを言葉で正確に表現したりすることが難しい実態の生徒も、絵や写真カードで選択して自分の思いを伝えている。しかしその中でも、不安なときに自分の考えを表出することが難しくなる生徒もいるという状況である。

イ 高等部研究で着目する「思考力・判断力・表現力」を引き出す授業づくりのポイントについて

高等部の教育目標である「社会生活や職業生活に必要な力をより一層高め、社会に向けて自ら学び考える心豊かな人間性を育成する」を目指し、「思考力・判断力・表現力」の中でも「自身の課題について自分で気付く」こと、「他者へ考えを伝えたり、他者の意見を受け止めたりして意見を深める」ことの2点に着目し、研究を進めていった。この2点を伸ばすために、「思考力・判断力・表現力を引き出す授業づくりのポイント」の中から、以下の3つのポイントを中心に授業づくりを行うこととした。

①「自分事としてのめあての設定」

今年度高等部では、生徒が「自分事としてめあてを捉える」ことができるように、学習活動の見通しやめあてを分かりやすく提示することや、授業のめあてを基に生徒が自分のめあてを設定する等の工夫を行ってきた。また、どのような授業や活動でも、自分自身で振り返りを行うようにした。その中で、できたことや楽しかったこと、またやりたいこと、次につなげたいこと等、様々な自分なりの思いをもって表出するようになってきており、学習を自分事として捉えることができるようになってきたと考えられる。

本校高等部生徒は、社会生活で必要となる力について知識として知っているものの、実際の生活で生かせていないということが課題となっている。そこには、社会生活で必要となる力を身に付けることを「自分事として捉えていない」「自分事として捉えることが難しい」という要因があると考えられる。そこで、高等部においては、「自分事」として捉える対象を、「学習のめあて」から「自分の現在及び将来の生活における課題」へと広げていくことが重要であると考えた。卒業後の職業生活や社会生活で必要となる力を身に付けていくことを「自分事」として捉え、その学習に主体的に取り組むことが大切である。

②「活動内容の工夫」

まず、本単元では、他者からの評価や意見を知り、自分の振り返りと比較して新たな視点に気付けるようにしながら自分自身のことについて振り返りをする時間の設定をした。これまでも就業・施設体験及び校内実習後は、反省会の記録や評価表等を活用して成果と課題を見つけるための振り返りを行ってきた。今回、3年生はさらに、3年間の就業・施設体験から学んだことを振り返り、1、2年生の時から自分がどのように変わっていったか、今度どんな力を身に付けていきたいかを考える活動も取り入れることとした。

このように学年での学習の中で整理した自分の成長や課題について再確認するために、1、2年生に向けて発表する場を設定することで、「自分の課題について自分で気付く」ことができると考えた。さらに、「他者に考えを伝えたり、他者の意見を受け止めて自分の考えを深めたりする」ことをねらって学部縦割りでグループを編成し、グループワークを設定することとした。

③「話し合い活動の工夫」
「活動内容の工夫」のひとつとして、高等部では「話し合い活動の工夫」にも着目して指導・支援を充実させたいと考えた。生徒の「自分の課題について自分自身で気付きにくい」ことを補うために、他者の考えや思いに触れて自分に置き換えて考え、その中から「自分事」を捉えていくことができるようなグループワークを行っていくこととした。 グループワークではまず、全体に「仕事面や生活面、余暇面でそれぞれ1番大切にしたい、高等部段階で身に付けたい力をグループワークで話し合う」という学習のめあてを示す。グループは普段話し合いの機会の少ない学部縦割りの3班編成とし、各グループで「高等部段階で身に付けたい力は何か」を「仕事面」「生活面」「余暇面」の3点について1つずつ設定していくこととした。 慣れていない場や人との関わりの中では難しいという実態を踏まえ、自分の考えや意見を付箋に書いて貼り出すという方法をとることとした。出てきた友達の意見を認めていることや、自分も同じ意見であることを表す「いいね」シールを貼る時間も設定する。いろいろな意見の中から「仕事面」「生活面」「余暇面」で1つずつに絞る中で、「なぜその意見にしたのか」等の理由についても考えたり意見交換したりできるように支援する。3年生はグループワークの中では司会進行の役割を担う。自分の意見を出しながらも、友達から出された意見をしっかり受け止めることが求められる。 また、質問に対してじっくりと考える時間が必要な生徒や、話し合い等の活動では受動的になってしまう生徒もいるため、教師はやりとりしながら丁寧に言語化したり、選択肢を準備したりする等、生徒一人一人の考えや意見が出せるような支援を行う。

ウ 本単元について

第1回研究授業の職業科「前期就業・施設体験事後学習」の単元を次のように計画した。

単元目標を生徒の段階に応じて設定し、評価規準については目標を「〇〇している。」と置き換えて設定することとした。

【単元目標】 ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

教科	段階	柱	目標
職業・家庭 (職業分野)	高1	ア	就業・施設体験や事後学習での話し合い活動等を通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解する。
	中1	ア	就業・施設体験を通して、学校卒業後の生活について知ったことを振り返る。
	高1	イ	3年間の就業・施設体験を踏まえて、自分の成果や課題について考え、表現する。
	中1	イ	就業・施設体験で経験したことと将来の生活の関連に気づき、それを表現する。
	高1	ウ	正しい自己理解をもとに、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養う。
	中1	ウ	就業・施設体験での経験を通して、将来の生活を楽しむにする。

【単元計画】

次	時数	学習内容
1	1	・全体事後学習
	2	・事後学習の目的、目標を知る ・事前学習の内容の確認
2	2	・これまでの就業・施設体験の振り返り
	2	・成果や課題の整理 ・1、2年生に伝えたいことを考える
	2	・成果や課題の発表（1、2年生に伝えたいこと） ・グループワーク「高等部段階で身につけたい力について」

エ 実際の取組1「これまでの就業・施設体験の振り返り」と 「成果や課題の整理・1、2年生に伝えたいことを考える」

高等部3年生では、本単元の2次のこれまでの就業・施設体験の振り返りの学習において、自分事として成果や課題を捉え、自分で気付くことができるための手立てを実態に応じて講じることとした。まず、各就業体験の評価を比較するためのグラフ化や色分けをした。グラフの凸凹を見ながら、就労・利用するために必要な力について、就業・施設体験でできていなかったことを確認し、これから自分の課題として挙げることができた（図68）。



〔図68 グラフ化した体験先の評価〕

また、自分の姿を客観的に見るため、動画での振り返りを行った。これまでも教師や就業・施設体験先で「作業スピードの遅さ」について指摘されており、本人も「気を付けなければならない」と知識としてはもっていたが、今回動画で就業・施設体験先の従業員の姿と自分の姿を見比べたところ「あ、本当に違う」とつぶやく等、実感をもって課題に気付くことができた様子だった（図69）。



〔図69 動画での比較〕

成果や課題として理解することが難しい生徒には、就業・施設体験での自分の様子を動画で振り返るようにした（図70）。教師が、「これは〇〇をみんなですて、楽しかったところだね」「お弁当が美味しかったね」等言葉かけしながら一緒に確認するようにした。その中で「（後期就業・施設体験の体験先名）！」と自分がこれから先行きたいと思っている事業所について口頭で伝える姿が見られた。「よかった」「楽しかった」等のポジティブな気持ちをもって動画を見ることで、「また行きたい」「またしたい」と



〔図70 体験先の動画の視聴〕

いう気持ちをもつことができたと考える。

以上のように振り返ったことを踏まえて、就業・施設体験の成果や課題について整理をしてワークシートにまとめた（図 71）。「就業・施設体験の成果と課題が何だったか」という視点だけでなく、「以前は難しかったが、今回の就業施設体験で自分ができるようになったこと」「どうやって課題を克服できたのか」等の視点も踏まえて、自分の経験を基について課



〔図 71 成果と課題を中心にまとめる〕

題解決のポイントについて考えるようにした。このような「〇〇を頑張ったから、〇〇に取り組んだから、〇〇ができるようになった」という時間経過や因果関係を踏まえ、1年生段階から振り返ったことにより、自分の成長に気付く様子も見られた。まとめた内容を基に、パワーポイントや発表原稿を作成した。1、2年生に発表することを意識して、より分かりやすい文章で表そうとする生徒もいた。

オ 実際の取組2「成果と課題の発表・グループワーク」

まず、3年生による1、2年生に向けた「これまでの就業・施設体験での成果や課題」の発表を行い（図 72）、その後、グループワークに取り組んだ。グループワークでは学部縦割りで3班を編制し、「高等部で身に付けたい力」について話し合い、話し合ったことは模造紙にまとめて、学部全員で共有するようにした。



〔図 72 1、2年生に向けた発表〕

高等部で身に付けたい力を「仕事・活動」「余暇」「生活」の3つのカテゴリー各グループ1つずつ挙げ、グループでそれに決めた理由についても考えるようにした。グループワークは、教師の言葉かけを受けつつも、3年生が司会進行を行ない、生徒達で進めていった。

グループワークでの話し合い活動が活発化するように、グループ全員が、項目ごとに付箋に自分の意見を書いて、模造紙に貼り出すようにした。付箋に書き出すことで、「誰か意見を出すだろう」ではなく、「自分も意見を出さなければならない」状況を作った。自分で文章や言葉と



〔図 73 グループワークの様子〕

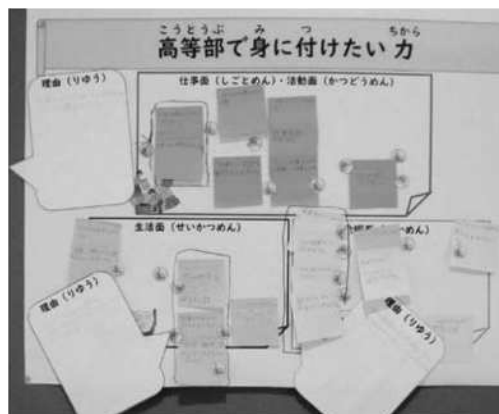
して表出することが難しい生徒については、事前に生徒にとって分かりやすい絵カード等を準備し、選択できるようにした。また、表出言語があっても、思いつくことが難しい様子の生徒については、教師がやりとりをしながら生徒が考えたことを具体化したり、前時までのワークシートを見てこれまでに考えたことを振り返るように促したりした。どの生徒も自分なりの意見を表出することができた。

付箋に書き出したことは、生徒が意見を表出することに役立っただけではなく、みんなの

意見を視覚的に確かめ合いながら話し合い活動を進める上でも役立てることができた。まず、意見を発表しながら貼り出した後は、みんなで「いいねシール」を貼る活動に取り組んだ。他の人の意見を知り、出た意見に「共感できる」「自分で気付かなかった」等の思いをもったところを視覚的に確認することができた。意見を出す時点でも肯定的に受け止める雰囲気があったため、自分の意見を出すことに大きな心理的な負担はない様子だったが、「いいねシール」が貼られることにより、より積極的に話し合いに参加しようという生徒の意欲が感じられた。次に、全員が出した意見を、似た意見、違う意見等模造紙に付箋を貼り合わせながら整理を行った（図 73）。

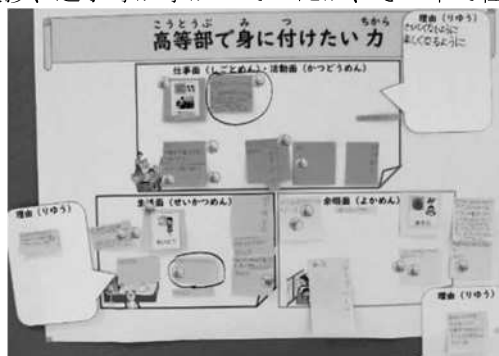
グループ内で意見を出し合って共有した後は、それぞれ1番大事にしたい力は何かを話し合って決め、話し合いの内容をまとめる活動を行った。3年生は、随時自分の意見を言いながらも、1、2年生の話をよく聞いて、それに対して適切なコメントをしようとしていた。まとめたことについては、模造紙の中の内容が見て分かるようにペンで丸く囲んだり、理由を記入したりした。

最後に、各グループでまとめたことについて学部全体で発表する時間を設けた。1グループでは、「仕事・活動面」での高等部で身に付けたい力として、仕事を行う体力やスピードや正確さ、質問をすること等の力が挙げた。その中で、仕事に遅れないようにした方がいいという理由で「時間を意識して行動すること」が1番大事なこととしてまとめられた。「生活面」では、早寝早起きや睡眠をしっかりとること等の意見が挙げたが、一人暮らし等卒業後の生活に役に立つという点で「一人でできることを増やすこと」を1番大事な力だとして意見をまとめた。「余暇の面」では、ゲームや音楽を聴くことといった一人で息抜きをすることよりも、仕事の中で気持ちがやすらぐという理由で「人と会話をする」ことをグループで選んでいた（図 74）。



〔図 74 1グループの話し合い結果〕

2グループは、「仕事・活動面」では集中力や挨拶、返事等が挙がっていたが、その中で仕事を楽しく行うことができるように「職場の人とコミュニケーションを取ることができる力」が1番大事だとまとめた。「生活面」では仕事に集中して取り組むことができるように「早寝早起きをして規則正しい生活をする力」、「余暇の面」では、「ストレスを溜めず好きなことをして時間を決めて楽しむ」ことがグループの意見としてまとめられていた（図 75）。



〔図 75 2グループの話し合い結果〕

3グループでは、「仕事・活動面」では1グループと同じように体力や質問をすること等が挙がっていたが、仕事において人と関わることが重要という理由から「あいさつ・返事」が一番大事なことでしてまとめられた。「生活面」では、規則正しい生活をすることや1日3食ご飯をしっかりと食べること等が挙げられていた。それらをまとめて「健康管理をきちんとすることができる力」とした。その理由についても、「今後自分が元気に仕事をする



〔図 76 3グループの話合い結果〕

ことができるようにするため」と話し合っていた。「余暇の面」では、家の中に関することと外で行う余暇のことで意見が分かれていたが、行けるところが広がるという理由で、「一人でバスや電車に乗ることができる力」を1番大事なことでしてまとめた（図76）。

カ グループワークでの3年生の個人目標と評価

研究の対象学級である3年生の個人目標と、実際に授業を実施した後の評価は以下のとおりである。高等部段階の生徒3名は、各グループの司会進行としてグループで意見をまとめる役割を担ったが、その際に他の人の意見を受け止め、「確かに」とつぶやく姿等も見られた。グループの他者の意見を聞いて、その意見を「自分自身にとっても必要な力」として落とし込んだのではないかと考えられる。

生徒	個人目標（学部段階）	評価	生徒の姿、次回に向けて
	グループワークで友達の意見を聞いて、高等部で付けたい力を選ぶ。（中1）	○	グループに参加し、友達の意見に近い2～3枚の絵カードから1枚を選び、自分が身に付けたい力について教師と一緒に発表することができた。今後の課題として、より生徒の実態に即した目標を設定していきたい。
	高等部で身に付けたい力についてグループで意見を出し合い、自分事として受けとめる。（高1）	○	仕事面は、コミュニケーションについて自分の課題から出すことができた。みんなの意見を聞くと、コミュニケーションが大事と多数上がった。グループの結論をどうするか尋ねると、友達の意見を聞いて、「やはり体力も大切かも…」と考えを広げていた。
	グループで意見を出し合い、友達の意見も受けとめる。（高1）	○	自分の意見を出した後、後輩の話を聞き、「そうだね」「それもあるね」等言いながら意見を受け止めることができた。
	グループで意見を出し合う中で、友達の意見を自分の意見と照らし合わせて自分にも必要なことに気付く。（高1）	○	友達の意見を聞いたり、出てきた意見を同じものと違うものに分けたりするときに、「大事だ」の言葉が出てくる等自分に落とし込んで聞いている様子があった。

キ 本取組のまとめ

本取組を通して、指導・支援として有効だった点や不十分だった点について「思考力・判断力・表現力」を引き出す授業作りのポイントに沿って検討した。

① 「自分事としてのめあての設定」
ポイント図の説明の内容にとどまらず、高等部では「自分の現在および将来の生活における課題を自分事として捉える」ところまで含まれると考えた。グループワークでは、話し合いは盛り上がったが、その後の学校生活の中では「高等部段階で身に付けたい力」を意識して活動に取り組む生徒の姿はあまり見られなかった。グループワークの中では、生徒の思考・判断・表現する姿が見られたが、それが自動的に他の場面に広がっていくものではないことが実感された。一方で、3年生の夏季特別就業体験では、単元で確認した課題を今回の体験での目標として自ら掲げる生徒がいた。また、作業スピードが遅かったことを課題として挙げていた生徒は、体験中の作業スピードを上げることができていた。このように働くために必要な力を「自分事」として受け止めて、生活に生かす姿も見られた。高等部3年間の学習を積み重ねる中で、生徒の心の変容が少しずつ見られていったのではないかと考える。 今後の学習では、グループワークで生徒が自分たちで見出した「高等部で身に付けたい力」を一人一人が「自分事」としてより深く受け止めることができるようにするために、学校生活のどの場面で身に付けていくか等、生活に反映できるようにするための具体的な活動を仕組んでいかなければならない。
② 「活動内容の工夫」
本取組では、従来の施設・就業体験の振り返りの在り方を見直し、より生徒が自分で思考、判断したり表現したりすることができる活動内容の工夫を行った。就業・施設体験の評価の図式化や動画の活用等、生徒の物事の捉え方の実態に対応するような振り返り方の工夫は有効だったのではないかと考える。また、3年生による1、2年生に向けた「これまでの就業・施設体験での成果や課題」の発表では、自分がもっている知識・技能を、下学年により分かりやすく伝えるためにどう言い表せばいいか考えることによって、3年生の知識・技能がさらに深まったと考える。また、1、2年生は3年生の話を聞いて、将来の生活に必要な力について知っていても、実際に行動に移すことの難しさを感じ取ることができたのではないかと考える。
③ 「話し合い活動の工夫」
成果として、グループワークをすることで、「将来に向けて身に付ける力」について生徒全員で考え共有することができたことや、生徒の「〇〇について気を付けていきたい」という意欲に繋げることができたことが挙げられる。話す生徒だけの活動とするのではなく、個別に選択肢を提示したり絵カード等を準備したりしたことで、どの生徒も考えや思いを表出する活動とすることができたことも成果だった。実際の話し合いの活動では、「意見を考える時間をもう少し長く取る必要があった」「意見を付箋に書く、意見を整理する、まとめるという活動それぞれの時間を十分に確保できていれば、より生徒たちの考えも深まった」等の意見が出された。本活動は生徒の「思考力、判断力、表現力」を引き出す活動として有効だったからこそ、もっと時間を確保すべきだったと考える。 また、自分の意見や考えを口頭だけでなく付箋に書くことで、友達の意見を見ながら似た意見や違う意見に整理することができたという成果が挙げられた。「高等部段階で身に付けたい力は何か」1番大事な力として1つに絞るときに、付箋で視覚的に表されていたため、それぞれの意見を見比べて判断することができたと思わ

れる。さらに、「いいね」シールを貼る時間を設けたことにより、自分の意見が誰かに認められたり、同じ意見の人がいたりすることが視覚的に分かり、それぞれのグループで意見を出しやすい雰囲気作りができていた。

対象の3年生はグループワークの司会進行の役割を担ったが、これまでの3年生同士の話し合い活動の積み重ねが活かされていたという意見が挙がった。自分の意見を出すだけでなく、1、2年生から意見を丁寧に聞き出したり、様々な意見をまとめようとしたりする姿があった。

課題としては、言葉を含め生徒の物事の捉えや認識が違う中で、自分達だけで意見をまとめることはやはり難しかった点が挙げられる。教師がそれぞれの意見を丁寧に解説する必要もあった。今後、様々な事柄について教師が生徒の身近にある言葉や分かりやすい言葉で問いを投げかけることによって、生徒同士の認識を擦り合わせたり、共通理解深めたりしていきたいと考える。

最後に本取組を通して明らかになったことを基に、高等部職員で「思考力、判断力、表現力」について改めて検討した。今回の研究授業では、自分の意見を書き出すことでこれから先の就業・施設体験や卒業後に向けて自分に足りていないことや頑張らなければいけないことに、生徒が自分で気づき、考えることができていた。自己理解を深め、思考することができていたのではないかと考える。このような「自分のことについて考える」ことを高等部における「思考力」と置くことができる。

また、話し合い活動の中で他者の意見に「それも大事だね」と反応を示したり、大事だと思うものに「いいね」シールを貼ったりしながら、グループの意見を1つにまとめることができた。意見に対して大事だと価値付けることができるのは、他者の意見を受け止め、自身がこれまでに積み上げた知識や経験を基に判断することができたらからこそだと考える。「他者の意見も自分事として受け止めて価値付ける」ことを「判断力」として置くことができるといえる。

さらに、発言したり、付箋に書いたり、絵カードを選んだりして意見を表出し、その意見に対して「それも大事。」と共感を表したり、自分の言葉で表現したりすることができていた。このような「自分の言葉や方法で表現すること」を「表現力」として置くことができると考えた。